

御所市教育委員会)の御示教に負うところが多い。

- (4) 改訂新庄町史編纂委員会編『改訂新庄町史』本編(新庄町役場、一九八四年)、伊藤勇輔・楠元哲夫『日本の古代遺跡6 奈良南部』(保育社、一九八五年)
- (5) 塚口「神武東征伝説」成立の背景」『東アジアの古代文化』二二二号、大和書房、二〇〇五年)。
- (6) 詳しくは、塚口「神武天皇と大物主神」『三輪山の神々』学生社、二〇〇三年)を参照。

〔挿図出典一覧〕

- 図1 王寺町史編纂委員会編『新訂王寺町史』(本文編)(王寺町、二〇〇〇年)
- 図2 〔注〕(1)と同じ
- 図3 〔注〕(3)の報告書
- 図4 〔注〕(3)の報告書
- 図5 〔注〕(3)の報告書



## 杏雨書屋の紹介

(会員) 石塚 一郎

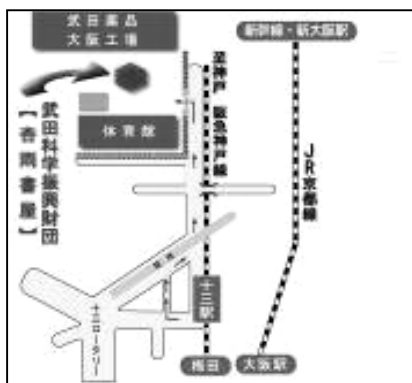
本草を中心とした古典医学書を所蔵する図書資料館が阪急十三駅近くの武田薬品工業の大阪工場・研究所の側にあるのをご存知ですか。その名を杏雨書屋といいます。

杏雨書屋は武田家五代目武田長兵衛氏(武田和敬翁)が、一九二三年九月の関東大震災により東京で貴重な典籍が灰燼に帰したことを大いに痛嘆し、日本・中国の本草医学の散逸を防ぐことが、将来、社会・学界のために極めて有意義であると考え、医薬書を中心に機会に応じて収集したことに始まります。

この収集事業は六代目武田長兵衛氏に引き継がれ、歳月とともにその内容も増大しましたが、一九七七年その収集資料が武田科学振興財団へ寄贈され、一九七八年四月二十八日「杏雨書屋」の名称を継承し、本草医学を中心とする図書資料館として開館するに至ったものです。ちなみに杏雨とは杏林(医学)を潤す雨の意であります。

所蔵する資料は、本草を中心とする古典医学書が主ですが、特に幕府御典医の曲直瀬家、幕末に日本最初の化学書『舍密開宗』を著した宇田川榕菴を輩出した津山藩医の宇田川家伝来本をはじめとする、多数の国宝・重文を含む日本医学史に関する膨大なコレクションで、その質・量は東洋一といわれています。

今、秋の特展で展示された「杏雨書屋の洋書」の多くがそのまま展示(明年三月頃まで)されています。



開館：月～金(祝日を除く)  
9時～16時  
Tel 06-6300-6815